

防 災 「災害に強いまちづくり」の実現に向けて

この度、上島町では町内の災害危険箇所や避難場所が掲載された防災マップと、災害の基礎知識を掲載した防災ブックを作成しました。防災マップは、防災ブックの図面袋に収納して各家庭へ配布しています。



■ 防災マップを作成した背景とは？

高知県沖の南海トラフを震源とする南海地震は、今後30年の間に50%の確率で発生することが予測されています。この地震は、昭和21年に発生した昭和南海地震の被害を遥かに超えるものになるといわれています。こういった大地震が発生すると公共機関やライフラインは機能がマヒし、防災機関においても十分な対応ができなくなる恐れがあります。このような事態に対応するためには、住民と行政が連携し、それぞれの役割を果たす必要があります。災害は不意に襲ってきます。住民の皆さん自身が「防災」を自らの問題として捉え、まずは、各家庭で防災マップに掲載された危険箇所や避難場所を確認し、災害に備えていただきたいと思います。

■ 防災マップの用語解説

○土石流危険渓流とは…谷や斜面にたまった土・石・砂等が梅雨や台風などの集中豪雨による水と一緒に流れて、一気に流れ出してくるのが土石流です。破壊力が大きく、また速度も速いので大きな被害をもたらします。このような被害をもたらす恐れのある渓流（保全人家があり、渓床勾配3度以上）を土石流危険渓流として、県が指定しています。

○急傾斜危険箇所とは…地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、弱くなった斜面が突然崩れ落ちるのが、がけ崩れです。突発的に起こり、瞬時に崩れ落ちるので、逃げ遅れる人も多く、死者の割合が高くなります。また地震をきっかけに起こることもあります。このような被害が生じる恐れのある箇所（保全人家があり、がけ高5 m以上、傾斜角度30度以上）を急傾斜危険箇所として、県や町が指定しています。

○津波警戒線とは…上島町は、国から東南海・南海地震防災対策推進地域の指定を受けています。これは、満潮時に2 m以上の津波が予想される地域のうちこれらの水位よりも高い海岸堤防がない地域とされています。大潮の平均満潮面が標高で約2 mあり、これに予想される津波高2 mを加えた標高4 mを津波警戒線として表示しています。しかし、津波は、海底や海岸の形状に影響をうけるため、警戒線より高地であっても津波被害を受ける恐れがあります。警戒線は、あくまでも目安として4 mの地盤の高さを表示しているものです。

○高潮既往浸水区域とは…平成16年8月30日から翌31日にかけて台風16号による高潮被害が発生しました。台風の接近と大潮の満潮とが重なり、町内全体で床上浸水19戸、床下浸水135戸と、今だかつてない規模の高潮被害が発生しました。防災マップにはこの高潮被害により実際に浸水や冠水した箇所を示しています。但し、この高潮既往浸水区域外であっても災害によっては低地にある区域は高潮による浸水の恐れがあります。

《防災意識啓発講演会のご案内》

- 日 時 平成18年4月23日(日) 14:00～15:40
 - 場 所 せとうち交流館 多目的ホール
 - 内 容 【基調講演】愛媛県危機管理監「住民一人ひとりに必要な防災の心構えとは」
【講 演】松山地方気象台次長「南海地震について」
 - 参 加 一般の住民の方々が対象の講演になりますので奮ってご参加ください！
- ※生名・岩城・魚島地区で参加を希望される方は、事前に各総合支所総務課へお問合せください